



変わる時代の確かな視点

News Release

2020 年度特別調査 「第4回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」のご案内

株式会社ニッセイ基礎研究所では、新型コロナウイルスの感染拡大によって暮らしが激変する中で、全国の20～69歳の男女2,070名に対して、新型コロナウイルスのワクチン接種意向やコロナ禍の行動変容や不安感について調査致しました。

日本国内でもワクチン接種が開始された一方で、地域によっては感染拡大第4波の始まりが懸念されています。3月下旬に実施した今回の調査では、コロナ禍の1年を経て、感染不安や経済不安はやや弱まっているものの、感染収束の見通しは悲観的になっています。また、巣ごもり需要や非接触志向の高まりで増えたネットショッピングやキャッシュレス決済サービス、テイクアウトサービス、自家用車などのセルフ手段の利用は一層、増えています。また、働き方の面では就業者の約2割でテレワークが増えた状況が定着しています。

なお、ニッセイ基礎研究所では、今後の変化を追跡するため継続して調査を実施する予定です。

<調査結果のポイント>

- ✓ ワクチン接種については過半数が様子を見たいと考えているが、高年齢であったり、持病があると積極的。
- ✓ コロナ前より収入増加層が多いのは公務員、減少層が多いのは自営業・自由業。
- ✓ キャッシュレスやネット通販の利用は引き続き増加、店舗の利用控えは9月調査以降は同様の状況。
- ✓ 車などセルフ手段の利用は引き続き増加、公共交通機関の利用控えが続くが必要に応じて再開の動きも。
- ✓ 食事のテイクアウト利用は引き続き増加、デリバリーはコロナ前より増えているものの9月以降は横ばい。
- ✓ 一部でテレワークが増えた状況が引き続き維持、出張や会食を全く実施していなかった層で再開の動きも。
- ✓ 感染不安や経済不安は依然として強いものの、やや弱まっている。
- ✓ 友人との距離や新たな出会いなど人間関係の不安は9月以降は強まった状況が維持。
- ✓ 日本経済や雇用の見通しは、6月以降、おおむね変わらないが感染収束の見通しは悲観的になっている。
- ✓ 感染リスクで出産をためらい少子化がさらに進行すると約4割が考えており、12月以降は増えた状況が維持。

調査結果の概要は[こちら](#)から

この件に関するお問い合わせ

ニッセイ基礎研究所「新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」担当 久我・井上

pr_corona@nii-research.co.jp

Tel.03-3512-1800

102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 | www.nii-research.co.jp



RESEARCH